

病院長補佐（災害担当）紹介

## 病院・医学部全体の包括的な災害対策と愛媛県との連携強化に着手

病院長補佐 災害担当 佐藤格夫

愛媛大学医学部・附属病院において災害対策本部では医学部長が災害対策本部長に病院長が災害医療本部長になります。ひとたび大規模災害になると災害拠点病院として院外にも役割が拡がり、愛媛県の災害医療対策本部や災害医療コーディネーターとの連携などが必要となります。今回、病院内の体制強化とともに病院の内外との連携・協力をスムーズに行うため、本役職に就任いたしました。また、災害対応というと、DMAT（災害派遣医療チーム）も関わってきます。DMATの訓練を受けた医療関係者は救急科を中心に他の診療科や看護部門、事務職にも在籍しており、大学内外での対応をDMATメンバーが効率よく機能するようにしていく必要もあります。今回の組織改変により、病院長の補佐を行いながら、拡大する災害対応に柔軟に答え、大学医学部の中の具体的な組織づくりにも着手していきたいと思えます。今年経験した新型コロナウイルス感染症や、その中で起こりうる地震・台風・豪雨といった自然災害との複合災害など今までに経験したことのない災害にも臨機応変に対応できる組織を目指していきます。病院全体や医学部（医学科・看護学科）まで広く災害の意識を高く持てるよう、広報・訓練も行っていきます。



### PROFILE

さとうのりお◎1995年愛媛大学医学部卒業後、同年日本医科大学救急医学教室、2011年京都大学初期診療・救急科の講師・准教授、2017年愛媛大学救急航空医療学の教授などを経て、2019年4月から救急医学講座教授、12月から現職（救急医学講座教授、救急部部長兼任）。専門は救急医学・集中治療。趣味は若者への無償の愛（継続中）。